

当日配布資料

■次第

【第1回】 下井草駅周辺まちづくりワークショップ 次第

日時：令和4年12月21日（水）

18時30分～20時30分

会場：区立八成区民集会所

第2・3・4会議室

- 1 開 会
- 2 開会の挨拶
(杉並区 都市整備部鉄道立体担当課長)
- 3 区職員、受託者・ファシリテーター等紹介
- 4 下井草駅周辺まちづくりの経過と現状
- 5 学識経験者による講義
(日本大学 理工学部土木工学科 関文夫教授)
- 6 グループディスカッションの進め方
- 7 グループディスカッション
- 8 全体取りまとめ
- 9 アンケート記入、今後のスケジュールについて
- 10 閉会の挨拶
- 11 閉 会

本日のテーマ
「下井草駅周辺まちづくりの
経過と現状」



日時：令和4年12月21日（水）

18時30分～20時30分

会場：区立八成区民集会所 第2・3・4会議室

開会あいさつ

本日の流れ

- ✿ 1) まちづくりワークショップの目的
- ✿ 2) 下井草駅周辺まちづくりの経過と現状
- ✿ 3) 学識経験者による講義（日本大学 関教授）
- ✿ 4) グループディスカッションの進め方
- ✿ 5) グループディスカッション
- ✿ 6) 全体とりまとめ
- ✿ 7) アンケート記入・今後のスケジュールについて

閉会あいさつ

1) まちづくりワークショップの目的

【目的】

○住民がまちづくりの担い手として、自分たちの住む“まち”の課題の抽出とその解決に向けた意見交換を行い、まちづくりのアイデアやヒントを探る。

○自分たちが住む“まち”をさらに魅力的にするために、課題解決に向けたまちづくりのアイデアやヒントを踏まえ、まちの将来像等の具体的な検討を行う。



1

2) 下井草駅周辺まちづくりの経過と現状

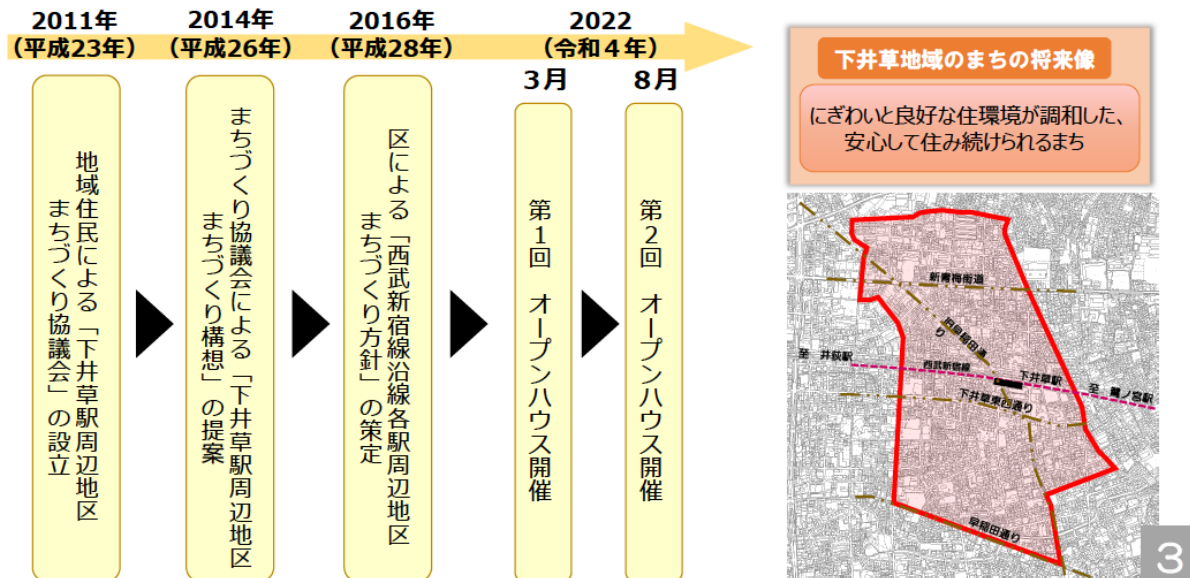
- ① まちづくりのこれまでの取組
- ② まちづくり構想
(下井草駅周辺地区まちづくり協議会)
- ③ 連続立体交差事業とは
- ④ 西武新宿線沿線各駅周辺地区まちづくり方針
～下井草・井荻・上井草～(杉並区)
※下井草駅抜粋
- ⑤ 最近の動きと今後のまちづくりの流れ

2

① まちづくりのこれまでの取組

下井草駅周辺では、開かずの踏切や鉄道による南北分断の解消などの課題があります。これらの課題解決に向け、区内の西武新宿線が鉄道立体化の検討対象区間として東京都により位置づけられました。

このような状況を踏まえ、区では地域の皆様やまちづくり協議会の皆様と共に鉄道立体化を見据えたまちづくりの検討を進めてきました。



② まちづくり構想 (下井草駅周辺地区まちづくり協議会)

平成26年3月

まちづくり協議会では、西武新宿線の連続立体交差化を見据えまちづくりの課題や目標の検討を進め『まちづくり構想』としてとりまとめ、区に提案しました。

(杉並区まちづくり条例第18条)

■まちづくりの3つの提案 (重点課題)

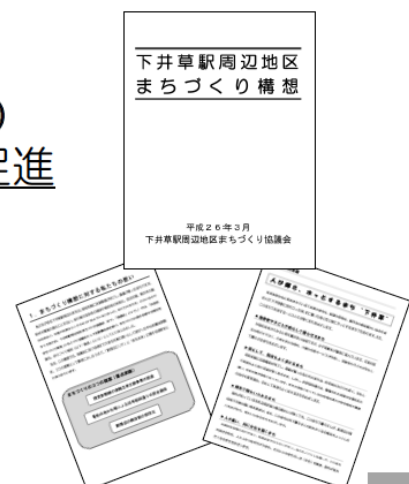
◎西武新宿線の連続立体交差事業※の促進

- ・区や関係機関と連携し、都や鉄道事業者へ働きかけをする

◎電線の地中化等による

旧早稲田通りの安全確保

◎駅周辺の商店街の活性化



まちづくり構想図（抜粋）



③ 連続立体交差事業とは

連続立体交差事業とは・・・

市街地において道路と交差している鉄道を一定区間連続して高架又は地下化することで立体化を行い、多数の踏切の除去や新設交差道路との立体交差を一挙に実現する都市計画事業です。

<主な事業効果>

- (1) 踏切遮断による交通渋滞及び踏切事故の解消
- (2) 市街地の分断を解消することによる、まちづくりの活性化
- (3) 新たに生み出される空間を駐輪場や公園など多目的な形で利用



引用：道路と鉄道の連続立体交差事業パンフレット（東京都建設局）

6

④ 西武新宿線沿線各駅周辺地区まちづくり方針（杉並区）

平成28年2月

区では、下井草駅周辺地区まちづくり協議会からの提案を踏まえ、道路整備や土地利用、防災、緑化等の3つの分野別方針を西武新宿線沿線のまちづくりの方向性や将来像を示すものとして策定しました。

分野別方針

交通体系分野 (道路・交通)

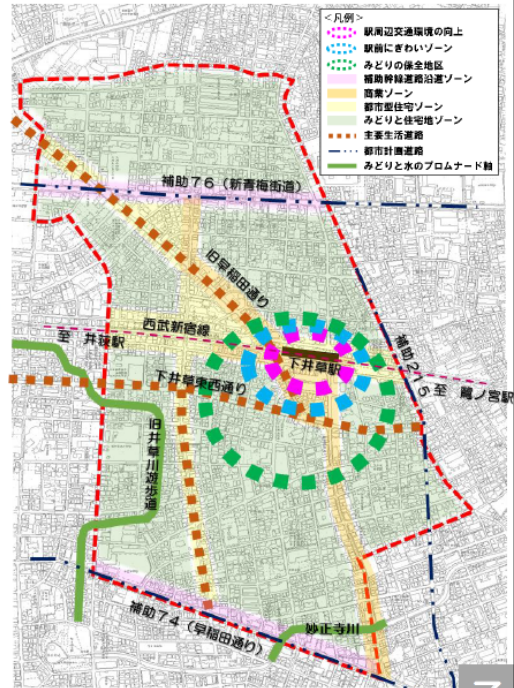
- 交通結節点機能の強化
- 交通ネットワークの形成

土地・建物利用分野 (商業・にぎわい)

- 駅周辺のにぎわい
拠点形成
- 適正な土地利用の誘導

住環境分野 (住環境・みどり)

- みどりの保全・育成
- 防災・防犯まちづくり



下井草駅周辺地区のまちづくり方針

◆交通ネットワークの形成

- ▶ 鉄道連続立体交差化の早期実現を図り、踏切除去による道路機能の向上
- ▶ 地区内の通過交通の抑制等交通対策を通して、歩行者、自転車、自動車、バスが、安全で快適に通行できる交通ネットワークの形成
- ▶ 駅前の広場環境を改善し、バス・タクシーの乗換利便性の向上

◆駅周辺に魅力的なにぎわいのあるまちづくり

- ▶ まちの顔となる駅周辺の環境整備、商店街の景観整備を通じて、にぎわいのある拠点形成
- ▶ イベントやマルシェなどの開催等商店街の魅力を高め、地域主導の商店街活性化の取組
- ▶ 駅周辺の商店街では、買い物客の一時的な自転車置き場や休憩スペースとして利用できるよう、建築物の配置の工夫

◆このまちらしさを活かした、安心して魅力的なまちづくり

- ▶ 駅前にあるサクラ（シンボルツリー）の保全や遊歩道・公園、屋敷林・農地などのみどり豊かな環境を維持し、魅力的な景観形成
- ▶ 防災・防犯活動や地域の行事などを通して、人と人がつながる地域コミュニティづくり

8

⑤ 最近の動き

令和4年で実施したオープンハウスでは、特に道路・交通分野の項目について多くのご意見をいただきました。

主な意見

道路・交通（課題）

道路・交通

- ・バス乗降時のバリアフリー化
- ・八成小前で折り返しているバス（中野駅～八成小学校間）を下井草駅付近まで乗り入れてほしい
- ・自転車駐輪場の整備

連続立体交差化

- ・高架・地下に関らず連続立体交差化を早く実現してほしい
- ・構造形式は地下がいい
- ・連続立体交差化事業の構造形式を前提としたまちづくり検討が必要
- ・連続立体交差化で人が行き交うまちづくりを

商業・にぎわい

- ・商店街の活性化に取り組んでほしい
- ・商店やまちの賑わいをもっとできるようなまちづくりの検討

その他

- ・広く住民等が意見交換できる機会が必要
- ・学生や若者が参加しやすいワークショップなどの支援があるとよい

住環境・みどり

- ・“住宅とみどりの多い街”を維持してほしい
- ・環境の良い地域がいい
- ・次世代が住みよいまちの形成
- ・地域交流ができるスペースの確保

- ・駅周辺の乗換利便性の向上（ロータリー・タクシー乗り場などの整備）
- ・駅周辺の歩行者、自転車の安全性確保
- ・旧早稲田通りの安全性向上

課題解決の検討

9

今後のまちづくりの流れ

道路・交通施設の整備に関する計画

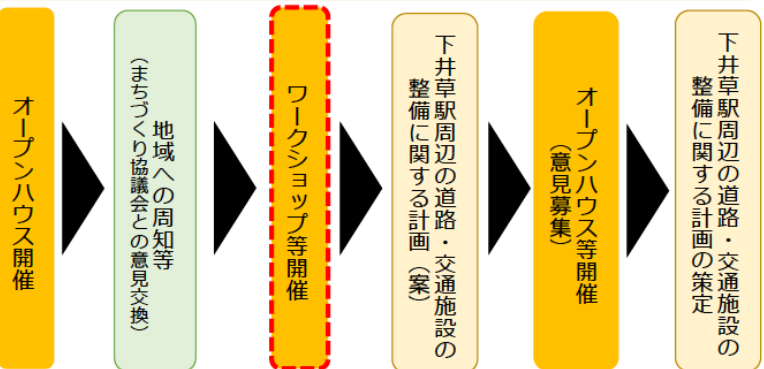
オープンハウスで多くのご意見をいただいた駅周辺の道路交通課題についてまちづくり方針で掲げた「交通体系分野」の方針に基づき計画の検討・策定を目指すものです。

土地・建物利用及び住環境分野についてもまちづくりの骨格となる基盤整備の取組状況を踏まえ、地域の皆様のご意見を伺いながら順次検討を進めていきます。

2022年
8月

2023年
(令和5年度)以降

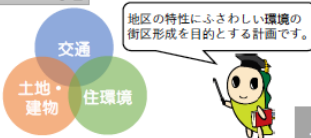
道路・交通に関する計画の検討 (交通体系分野)



まちづくり計画の検討

- 駅周辺のにぎわい拠点形成
 - 適正な土地利用の誘導
 - みどりの保全・育成
 - 防災・防犯まちづくり
- など

まちづくり計画



10

■ アンケート

第1回 下井草駅周辺まちづくりワークショップ アンケート

本日はご多忙の中、また遅い時間帯の開催にも関わらずご参加をいただき、誠にありがとうございました。今回のまちづくりワークショップに対するご意見やご感想がございましたら、是非お聞かせください。今後、開催時の参考にさせていただきます。

後日、あらためてご提出される方は、以下のお問合せ先までFAXで送付願います。

■ 今回のまちづくりワークショップについて

- よかった
- どちらとも言えない
- よくなかった

■ まちづくりの経過や現状等のお話について

- 参考になった
- どちらとも言えない
- 参考にならなかった

■ グループディスカッションの時間配分について

- ちょうどよい
- どちらとも言えない
- 足りない

■ グループ内での発言はできましたか

- できた
- どちらとも言えない
- できなかった

■ 班分けについて

- 次回も同じ班を希望
- 次回は別の班を希望

■ 次回以降の開催希望日について

- 平日 (月 火 水 木 金)
- 休日 (土 日)

※18時以降開催想定

※午前開催想定

■ その他 (自由記入欄)

お名前 (任意) _____

ご協力ありがとうございました。後日、FAXでもご提出いただけます。

FAXで送信される方は、電話番号のご記入をお願いいたします。

このアンケートは、本まちづくりワークショップの目的以外には使用いたしません。

<お問合せ先>

杉並区都市整備部市街地整備課 担当 門脇、下平

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 杉並区役所西棟3階

電話 03-3312-2111 (内線3379) FAX 03-3312-2907

■学識経験者による講義

日本大学理工学部 教授 関 文夫

土木デザインを専門に、森づくりや橋、石積み、高速道路、ドバイで海の中に島をつくるなど事業に携わる。

【講義概要】

まちづくりとは

- ・「あなたはどこに住んでいますか？」という問いは、まちづくりには重要なキーワード。
- ・日本人に対してこの質問をすると駅の名前か市区町村で答える。
- ・我々の日常は、自分の部屋、家、周辺の公園や道路、商店街、学校、公共施設があり、自宅と勤務先を往復する毎日であり、部屋と部屋の間を交通手段を使って移動しているだけである。それで何が見えるのか。
- ・交通手段を整えることで、まちや地域が発展する要因となる。
- ・今回は、交通手段をどうするかという大きな命題に取り組むことになる。公園や歩道をよく見てみると、道路の下には下水管があり、上には電柱も立っている。さらに商店街があり、会社も含めて街はインフラによって便利な生活ができるように構築されている。そういった視点のもと街全体を見渡すといろいろなものが見えてくる。

海外に目を向ける

- ・ケンブリッジという街がイギリスにある。レストラン、図書館、本屋、教会がありここで「あなたはどこに住んでいますか？」と質問すると、駅名を言う人は誰一人といない。
- ・《こんな芝生広場があり、こんな鳥がいて、リスがいて、こんな川があり、このようなアルバイトをして学生が生活費を稼いでいる・・・》というような答えが返ってくる。
- ・『街の中の活気を紹介して、だから私はここに住んでいる』と話す。
- ・週末になると、フリーマーケットが開かれ、街角で音楽を演奏するなど、これらによって街が彩られていく。だからこの街に住んでいると楽しい。だから好きになる。
- ・仮に欧米人が下井草を紹介すると「春になると桜が咲き、夏には多くの子どもたちが参加する夏祭りがある。」というようになる。
- ・つまり、部屋に住むのではなく、街に住んでいるかどうかが重要。
- ・街に住んでいるという意識になると、落ちているゴミが気になり、自転車が気になる。
- ・まちづくりの第一歩：『街に住む』という感覚を持つ。

まちづくりを担う・考える視点

- ・これからのワークショップも街に住むという観点を持ち、図面に出ているところは全部自分の部屋だと思って意見を出してもらいたい。
- ・まちづくりとは、誰が何をするかと定義してみる。

内海先生

『個人の自己実現を超えて、街という社会的共通資産を地域社会が力を合わせて作り上げる活動』

佐藤先生

『地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携協力して身近な居住環境を街の活力と魅力を高め、生活の質の向上を実現するための持続的な活動』

まちづくりの歴史

- ・「まちづくり」という言葉は、増田士郎が1952年の雑誌に「都市実現のための新しいまちづくり」と言ったのが初出と言われている。
- ・この時代は、行政がまちづくりを担い勝手に工場を作ると環境汚染が始まるので、そこに住んでいる人が「行政に任せておくとまずい、みんなで街づくりをしよう！」というのがスタートラインだった。

まちづくりのステップ

- ・まちづくりとは、
 - ①街の舞台を作る
 - ②様々なインフラを作る
 - ③人が集まる場所を作る（お店等）そこで人が交わることで文化や生業が生まれる。
- ・これらが良い状態でまじりあっていくと活気のある街が生まれ、スパイラルで下がると活気のない街になってしまう。
- ・箱だけ作ってもいい街にはならない。そこにどういう人が集まってどういうふうにかかすかが極めて重要である。
- ・この3つ（街の舞台をつくり、様々なインフラをつくり、人が集まる場所をつくる）があることが軸になる。
- ・今、街を元気にするために、生活に関わることでやらなくてはならないことがたくさんある。それを市民・区民から上に上げていき、行政に予算を確保してもらったり、助成金をもらえる都市は各地にある。
- ・今は、市民・区民が意見を言う時代になってきた。
- ・2004年には景観法ができ、全ての国民は美しいまちづくりに協力しなくてはならないと書かれている。豊かな生活環境の創造、個性的で活力ある地域社会の実現、地域社会の健全な発展に寄与することが必要、とある。

まちづくりの担い手とは

- ・かつては自治体が道路を作り、川を治水し、水道を引いた。それを今度は、住民が中心になって、街を作り、守り、かつてはあったものを再生するなどを軸に、そこに住んでいる住民が考えていくという時代になってきた。
- ・まちづくりから自治体に対して意見を言う、まさに今日のこの場（ワークショップ）で住民が意見交換したものを自治体に届ける場である。
- ・まちづくりは、自治体がまちを運営しているのではなく、ここにいるみなさんが主役。市民・区民がどんどん意見を言わないと街は良くなる。さらに、NPOや大学、今日はファシリテーターなどの専門家にもアシストしている、さらに企業や団体など住民のまちづくりを応援してくれる人がたくさんいる。そういうことが広がっていくのがまちづくり。

かつての下井草駅（写真からまちの形成を考察）

- ・下井草駅は、ホームがあり列車が対面で2つ。今と大きな変化はないが、駅は南側で西を向いていた。それで下井草は南側を中心に商店街が発展してきて、北側は賑わいがなかった。その後、跨線橋ができて新しい駅舎になり、今の駅舎になった。

これからの下井草を考える

- ・今回は、交通軸が絡みいろんなことができそう。これを含めて考えることができるのは千載一遇の大きなチャンスであり、これを逃すと未来の下井草は活気を無くしてしまう
- ・住みづらいところを解決し、住みやすくし、街をよくするために大いに知恵を出してもらいたい。
- ・《下井草の本当の魅力とは》何かを考える機会。
- ・20年、30年後にどういう下井草にしていきたいのか、が大きな命題。
- ・ワークショップで話すことが実現するまで、どんなに早くても15年から20年くらいはかかる。その先をみんなで見据えて、下井草に住めば分かる下井草の未来、下井草が自分の部屋なら、どこが便利で片付いていて、どこが汚れているのか、それをみんなで議論する。そして今回の鉄道事業については、目先のことでなく公的な視点に立って20年先に「私が20年前にこうしよう！と話し合ったもの。」と言えるような議論をしてもらいたい。

以上

「住みやすいまちとまちづくりの考え方」

下井草駅周辺地区まちづくり

令和4年12月22日

日本大学理工学部 教授 関 文夫



[プロフィール]

1985年3月 日本大学理工学部土木工学科卒

1985年4月 大成建設(株)入社

橋梁を中心に設計部と作業所を往来した後に、土木デザインを独学。土木設計部で、河川、道路、公園、駅前広場、スポーツ施設など構造と環境を融合させるデザインを展開し、国内外に実績多数。

2011年4月 日本大学理工学部土木工学科 教授

2012年4月-2015年3月 大阪大学大学院非常勤講師

2022年12月 現在に至る

土木設計家

土木技術者(技術士)

教授 関 文夫 博士(工学)

Civil Engineering Architect

Professional Civil Engineer

Prof. Fumio SEKI Dr. Eng.

[住所]

1982年3月-1988年3月 杉並区本天沼1丁目

1991年4月-2000年11月 練馬区南田中

2000年12月-

2022年12月

杉並区井草1丁目

井草在住22年

杉並区在住28年

旧早稲田在住38年

[専門]

- ・土木デザイン 橋、トンネル、高速道路、河川、街路、公園、駅前広場、スポーツ施設などの設計
- ・構造システム 構造解析、構造システム、耐震設計、維持管理
- ・土木史 土木技術史、土木設計史、江戸土木史
- ・まちづくり まちづくり、活性化、限界集落PPP、水力発電
- ・森づくり 生物多様性、カーボンFIX、環境教育、
- ・災害救助 救助訓練施設設計、訓練プログラム、災害教育

下井草駅周辺地区まちづくり

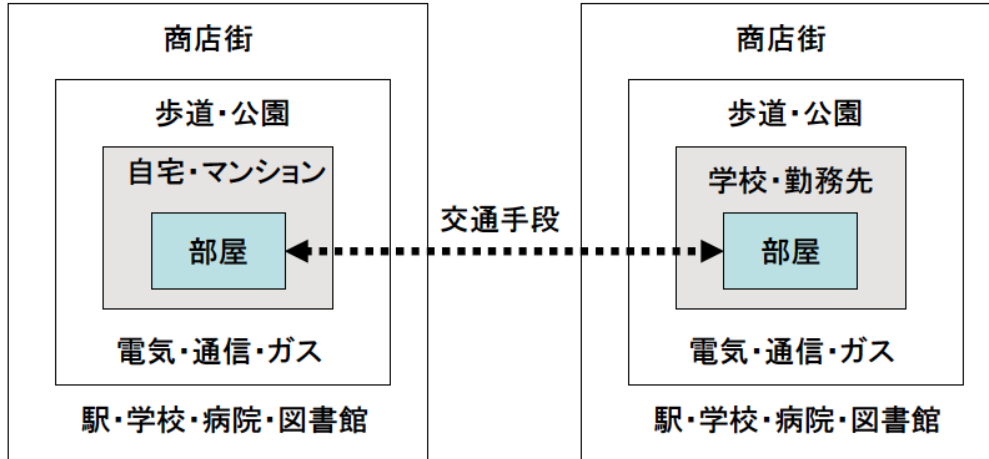


あなたは、どこに住んでいますか？

⇒ 駅名
エリア名
市区町村名

⇒ 杉並区
下井草駅
荻窪の北(3.0km)
阿佐ヶ谷の北西(3.0km)

まちづくりの考え方

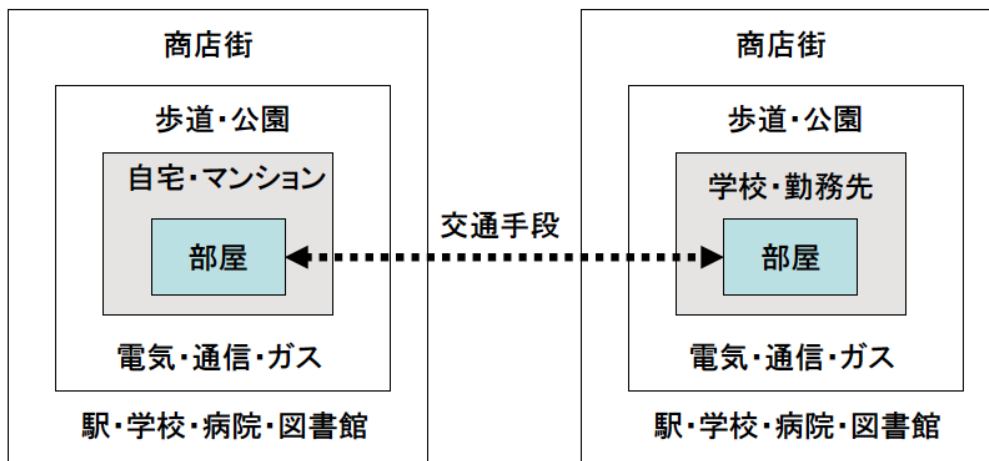


下井草駅周辺地区まちづくり

まちづくりの考え方

交通(移動)は、「目的地に移動する」だけ?

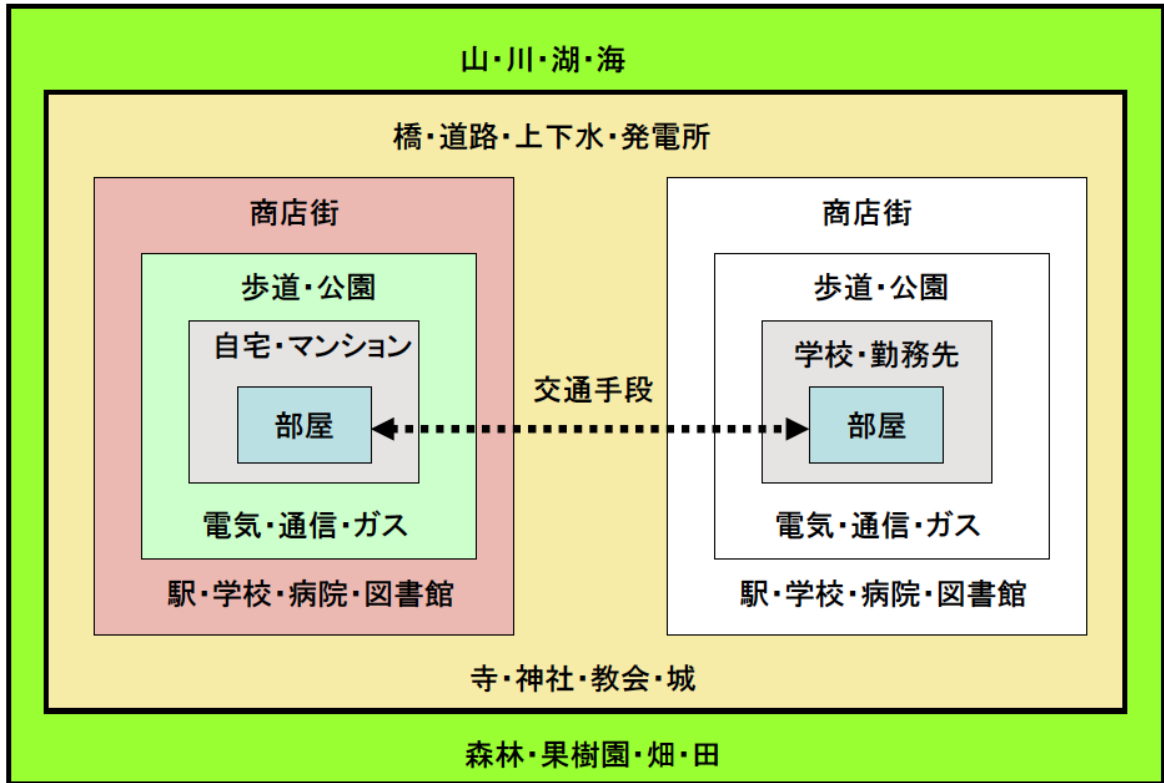
家(部屋)と学校(会社)を移動するだけではありませんか?



交通手段は、通勤、通学、買い物などを便利にするのは大切なもの
交通(駅、駅前)を整備すれば、物、人が動き、まち、地域が発展する

下井草駅周辺地区まちづくり

まちづくりの考え方



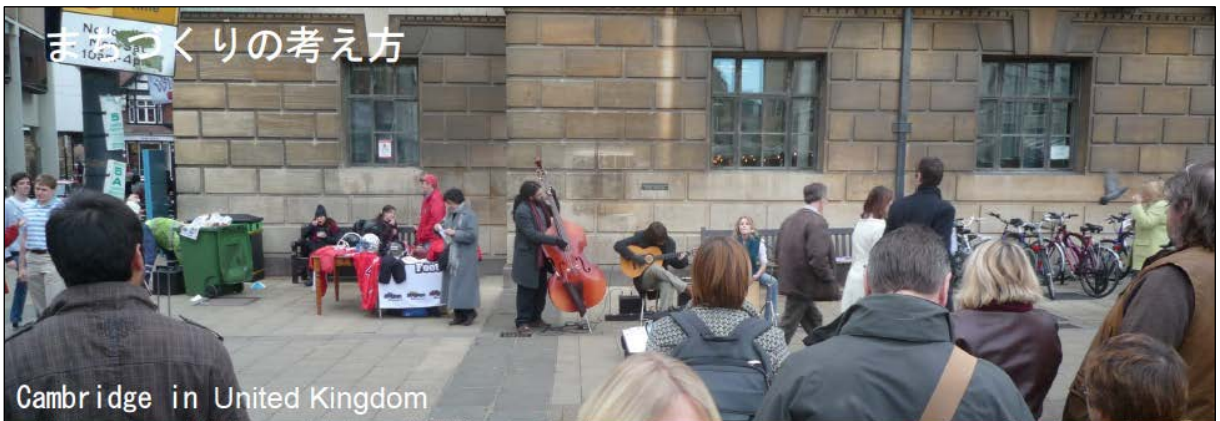
下井草駅周辺地区まちづくり



下井草駅周辺地区まちづくり



Cambridge in United Kingdom



Cambridge in United Kingdom



下井草駅周辺地区まちづくり

まちづくりの考え方

あなたは、どこに住んでいますか？

私の住む井草には、春になるとさくらが咲く、さくら公園という公園があり、夏には多くの子供たちが参加する夏祭りがあります。

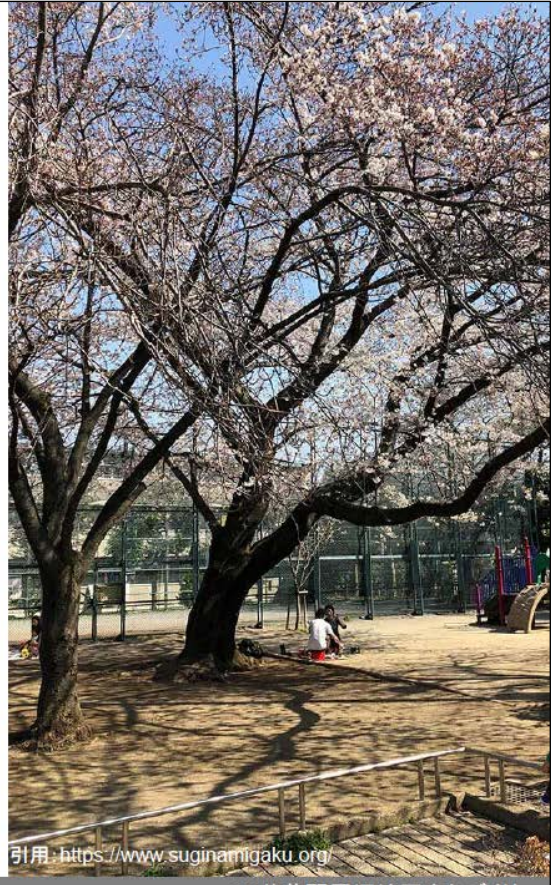
あなたは、まちに住んでいますか？

部屋や家から飛び出して、まちにすむという考えが大切です。まちが自分の住む空間となると、落ちているゴミも、自転車も自動車も家もみんな気になる。

「まち」にすむという考えが

⇒住みやすい「まち」をつきたい

まちづくりの第一歩



引用: <https://www.suginamigaku.org/>

下井草駅周辺地区まちづくり

まちづくりの定義

■ 個人の自己実現を超えて、「まち」という社会的共通資産（基盤）を地域社会が力を合わせて創り上げる活動

内海麻利：まちづくり制度に見る住民参加の新しいかたち（まちづくり読本），公職研

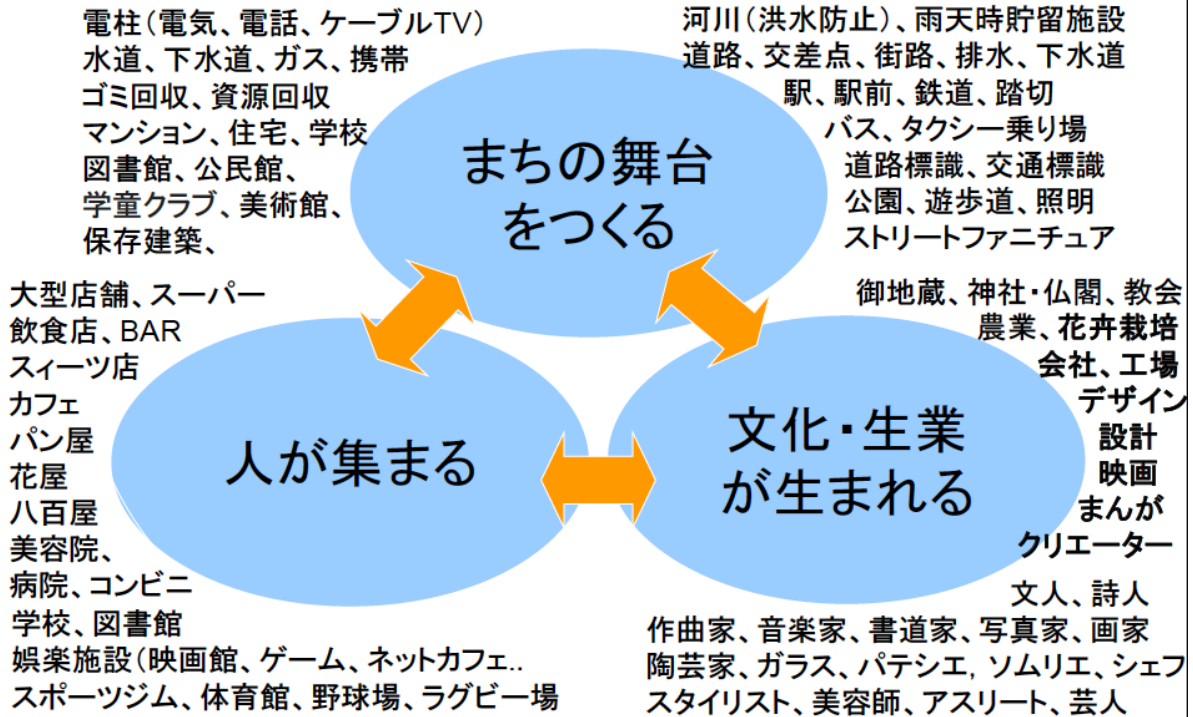
■ 地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して身近な居住環境を漸進的に改善し、まちの活力と魅力を高め、生活の質（QOL）向上を実現するための一連の持続的な活動

佐藤茂：まちづくりの方法，丸善，2004年

■ 日本での「まちづくり」という言葉は、もともと市民が官制の都市計画に対抗し、生活者の発想に基づいて身近な生活の条件を整える活動として1950年代に生み出された言葉。一説によると1952年の雑誌『都市問題』に都市自治実現のための「新しい町づくり」として登場したのがはじめてとされている（増田四郎著の論文）

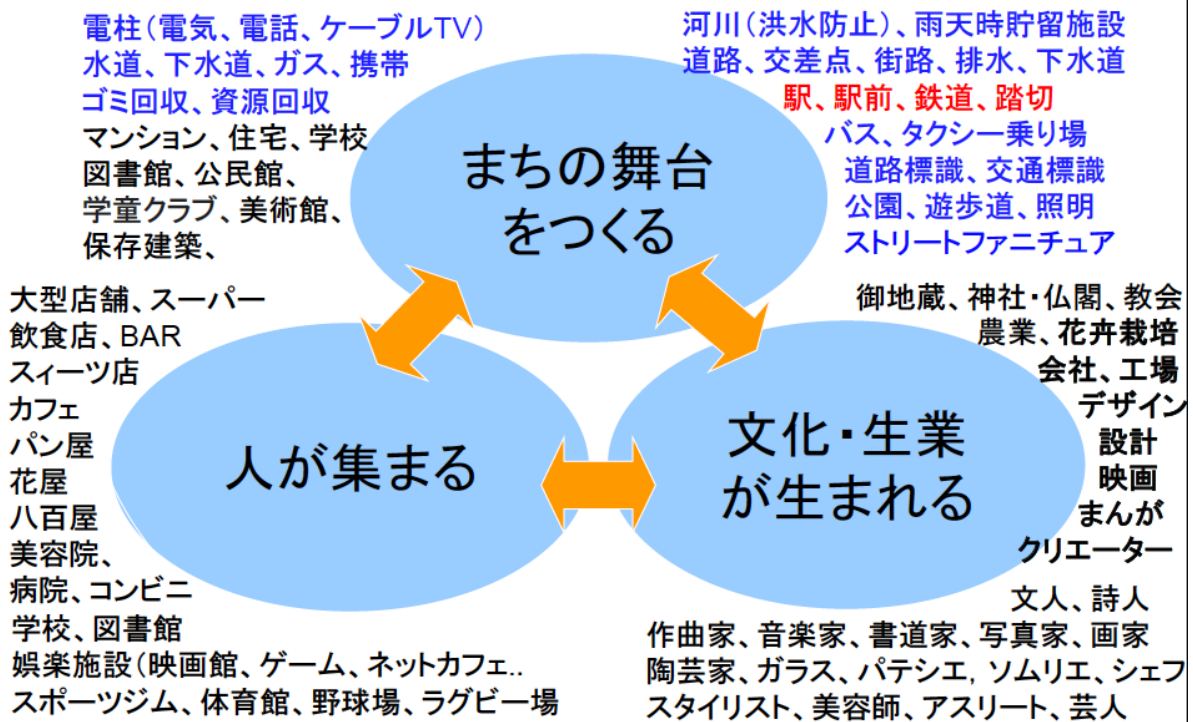
下井草駅周辺地区まちづくり

まちづくりとは

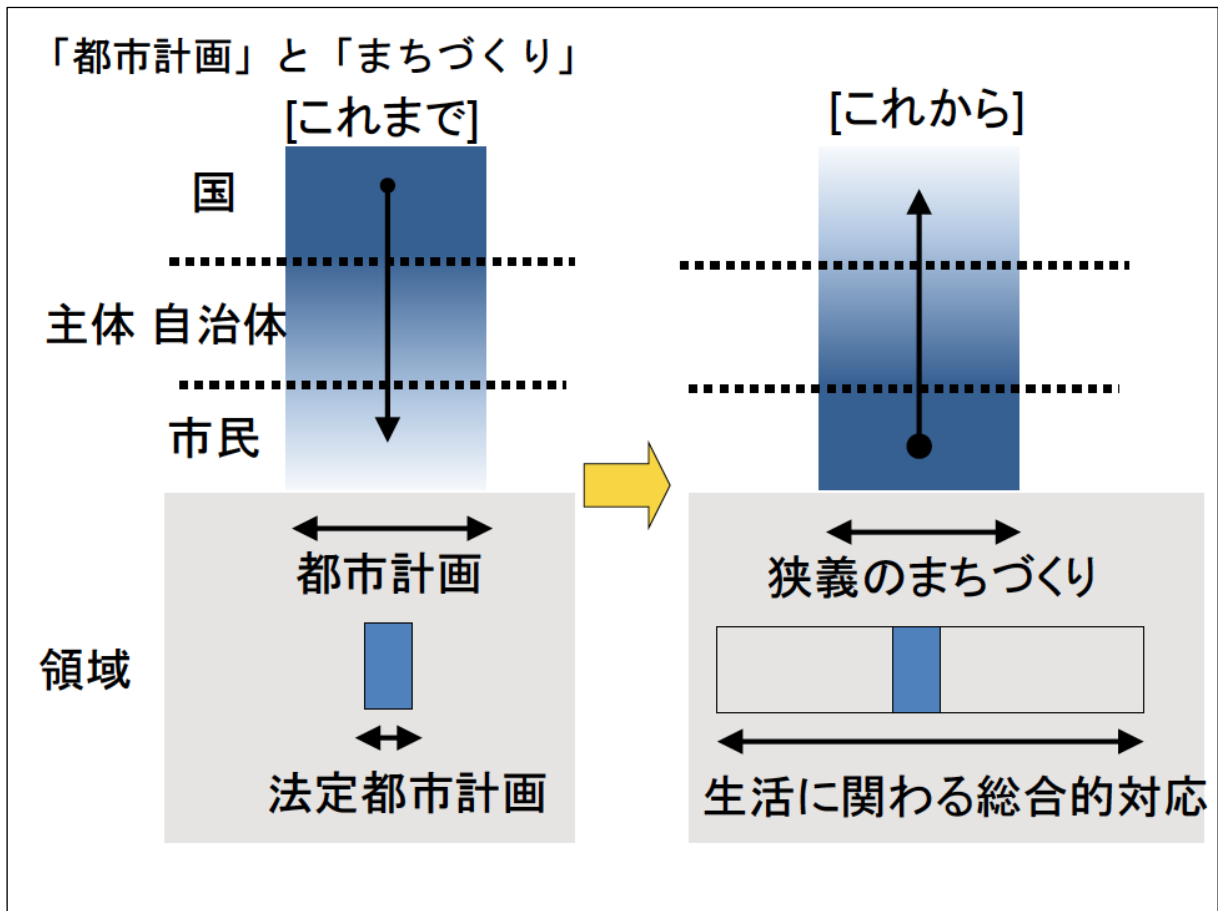


・下井草駅周辺地区まちづくり

まちづくりとは



・下井草駅周辺地区まちづくり

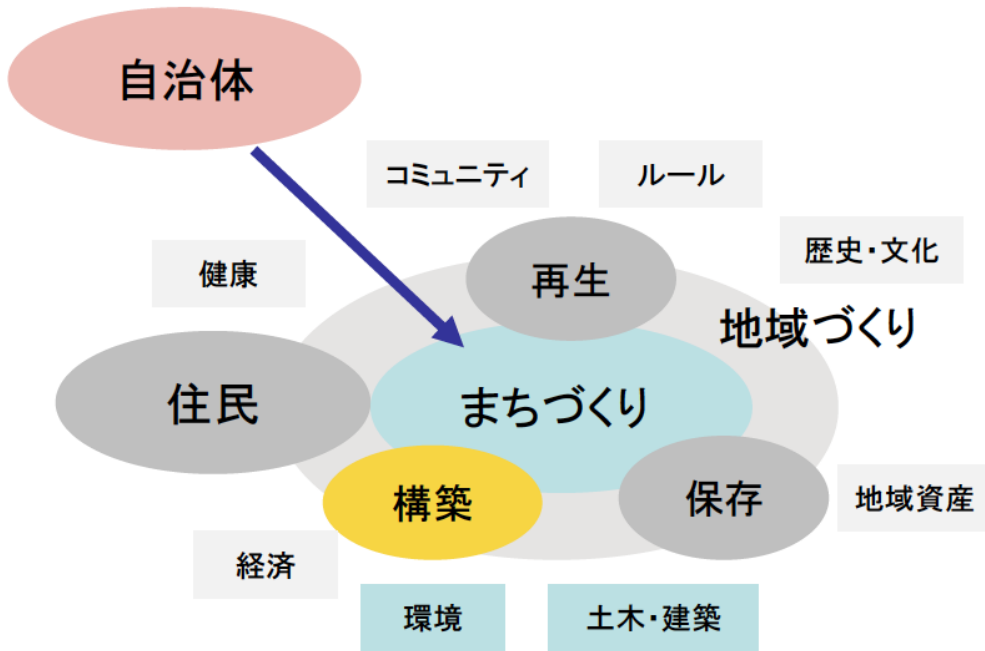


【景観法】2004年
この法律は、我が国の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある**豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現**を図り、もって国民生活の向上並びに国民経済及び**地域社会の健全な発展**に寄与することを目的とする。（景観法：第一章）

美しい国、まちづくりのために
国土交通省
景観法の概要

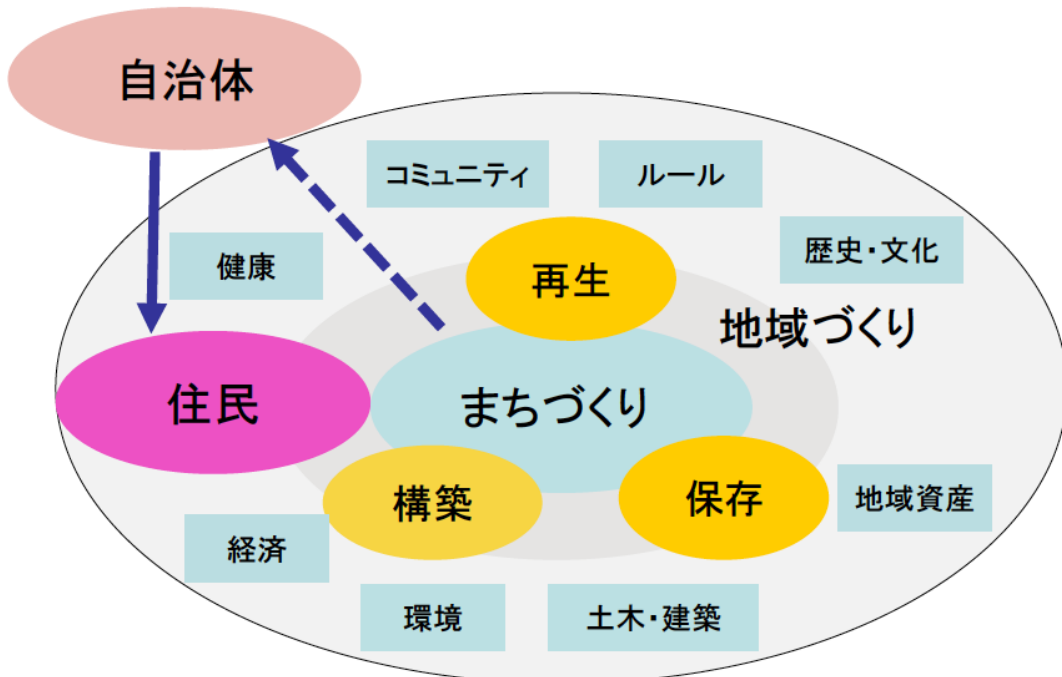
下井草駅周辺地区まちづくり

誰がまちづくりをするのか



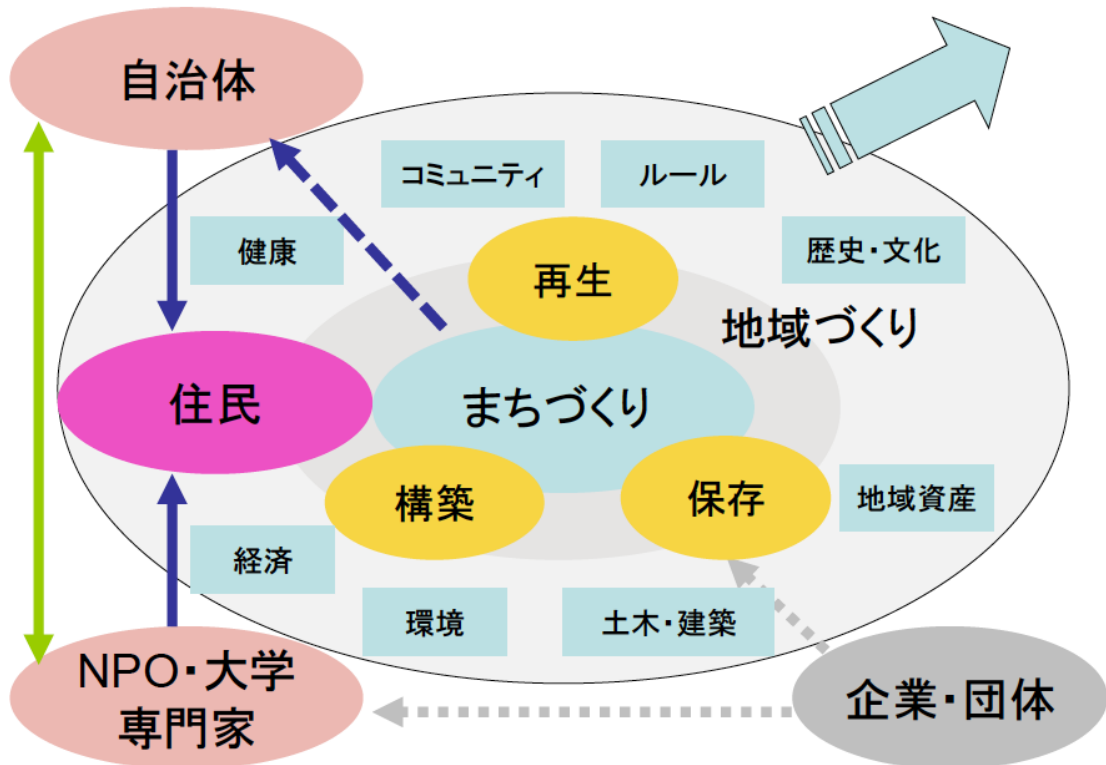
下井草駅周辺地区まちづくり

誰がまちづくりをするのか



下井草駅周辺地区まちづくり

誰がまちづくりをするのか



下井草駅周辺地区まちづくり



杉並区立郷土博物館所蔵

1927年（昭和2年）4月16日 - 開業。

1960年代後期 -

構造を島式ホーム1面2線から相対式ホーム
2面2線に変更。

1970年（昭和45年）10月4日 - 跨線橋の使用開始。

1982年（昭和57年）8月3日 - 当時の新駅舎完成・使用開始。

2005年（平成17年）12月 - 1982年からの南口旧駅舎解体開始。

2007年（平成19年）2月3日 - 新駅舎完成・使用開始。

同時に太陽光発電設備の使用を開始。

鉄道事業における駅・駅前広場の整備

・みなさんの下井草を考える機会

- ⇒下井草の魅力とは何か
- ⇒20年先に、どういう下井草にしたいのか
- ⇒20年後、30年後の下井草の姿を想像しましょう

下井草に住みましょう。
住めば解る下井草の未来！

・まちづくりは、とても大きなチャンスで千載一遇の機会

- ⇒これまでの住みづらいものを変更するチャンス
バス停、タクシープール、自転車道……。
- ⇒ますます住みやすくするためのチャンス
公園が欲しい、イベント会場が欲しい、……。
- ⇒まちを元気にするためのチャンス
商店街を活気づけるために必要なコト・ヒト・モノとは……。

下井草が自分の部屋なら、どこが不便、便利、片付く、汚いか解りますね。

・交通軸を考える＝都市軸の変化

- ⇒高架案 鉄道が2階を走ることによる影響
鉄道の1階のフロアの有効利用
- ⇒地下案 地上面の有効利用と駅前広場の構築

今回の鉄道事業をどのように考えるのかは、目先のものではなく、公益な視点に立って。